

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名 (桑名西高等学校)

1 目指す姿

<p>(1) 目指す学校像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの意志で学び、より高みに向かおうと挑戦する意欲にあふれた学校 ○ 協働と交流を通して、たくましく生きる力と他者への思いやりが育つ学校
<p>(2)</p>	<p>育みたい児童生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の興味関心や適性、働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる。 ○ 授業を大切にするとともに、各教科の学習活動に自発的・協同的に参加し、知識と技能、思考力・判断力・表現力を育む努力ができる。 ○ 部活動との両立等、時間管理を意識して家庭学習習慣を定着すること、進路実現に向けて自分自身の学習スタイルを確立することができる。 ○ 基本的な生活習慣等、人としてのあり方生き方のすべてにつながる土台となる部分が定着し、挨拶や交通ルールが遵守でき、他者への配慮ができる。
<p>(2)</p>	<p>ありたい教職員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、生徒に関する情報や校務運営の情報が十分に共有され互いに協力し合っている。 ○ 授業をはじめとしたすべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めている。 ○ 普通科の理念(共通性を重視し、幅広い教養を身につける)を生かし、教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場を目指している。

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p><生徒> 基礎基本から様々な進路希望に対応した専門分野に関する内容まで、興味関心を喚起する授業。安心してのびのびと豊かな学校生活を送るための教育環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かい指導・支援。</p> <p><保護者> 学力伸長と進路希望実現に向けた学習指導・進路指導・生徒指導の充実。学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。安全・安心な教育環境。</p> <p><地域> 学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。</p>	
<p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p>	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭> 学力伸長および進路希望実現や、豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。</p> <p><中学校> 本校の特色や生徒の学校生活の様子、進路状況などの情報提供。</p> <p><地域> 学校行事等の公開。地域活性化のために地域行事や防災活動等への生徒の参画。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭> 学校教育への理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた支援。</p> <p><中学校> 基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。情報交換と協力・支援。</p> <p><地域> 学校の教育活動や生徒が生き方や働き方を考えるための協力・支援。</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・大学がより一層多様化し、また、学部や学科名が同じであるにもかかわらず教授内容が異なる場合も多くなってきている。生徒が学部の内容をよく理解せずに進路決定してしまうことも考えられ、進路面談など進路指導の一層の充実を図る必要があるのではないか。 ・生徒たちが進路等に関する情報を得る場合、図書館やインターネットの活用が一層必要になってくる。図書館の充実やインターネット利用環境の改善が必要ではないか。 ・働き方改革の点から、教職員の時間外労働時間の削減にむけて外部人材を活用することが求められており、ボランティアや地域の協力をもっと得る必要があるのではないか。 ・防災教育については、桑名市とも連携する必要がある、地域の人々にも、日頃から桑名西高校をもっと知ってもらったり、足を運んでもらう機会を作ることが、災害時の避難に繋がる。また、今後さらに高校生を力活用することが大切ではないか。
		(4) 現状と課題
<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の社会で求められる力を着実に身につけさせるため、総合的な探究の時間の在り方を検証し、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図る必要がある。 ・居室が分散し、各学年や分掌、教科を越えた横断的な取組について話し合う機会が制限されているため、教職員間での情報共有や意識統一を円滑に図るための工夫が必要である。 ・日頃から教職員間の対話を重視し、情報共有の方法や会議の運営等について工夫改善を図り、学校全体として多忙化の解消と組織力向上に取り組むことが重要である。 		

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒がより高い目標を設定し、自ら学ぶ姿勢を身につけ、自己の可能性を伸ばすことができる学習活動を推進する。 ・新学習指導要領や高大接続改革の答申を踏まえて、生徒の進路希望実現に必要な読解力・文章力・表現力等が身につけられるよう、教職員一人ひとりが指導力の向上を図る。 ・高校生活を通して主体的に行動することができるようになり、社会性、協調性、責任感、創造力、企画力、コミュニケーション力、忍耐力などを身につけ、心身共にたくましく他者への共感ができる生徒を育成する。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学力向上に向けた教科横断的な取り組みや、学年・分掌間の連携を密にして、新たな企画や改善策を積極的に提案し合う体制を構築する。 ・あらゆる場面で生徒の思考力・判断力・表現力を育成するとともに、これまで教科や学年を中心に進めてきた授業力向上の取り組みを学校全体で行い、教科横断的で探究的な学習への転換を着実に図るよう検討する。 ・学校全体で目的意識の共有化を図り、組織力を向上させるとともに、地域の多様な関係者と連携することなどにより、有意な社会人を育成するために最適な教育環境を創造する。

<p>キャリア教育の充実</p>	<p>(4)センター試験や私大一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学における推薦入試の積極的な活用を図る。</p> <p>(5)主権者として社会の中で自立し、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につける。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望実現に向けた個人面談を年4回以上実施。 探究学習プロジェクトを組織し学年別に探究活動を実施。 大学進学希望者のセンター試験・一般入試受験を促進。 <p>・授業及び総合的な探究の時間を活用した「18歳選挙権」関連講座の実施。</p> <p>・ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、教育委員会や地域と連携した活動の活性化。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比べ、センター試験受験者が増加した。今年度は大学等に関する情報発信をおこなった成果である。 主権者プロジェクト会議 2回開催。 2回以上の個人面談と個々に応じて複数回面談を実施。 探究プロジェクト会議 5回開催。 大学入試センター試験出願者 240名 (昨年度 210名) 7月：模擬選挙 (3年) 2月：18歳選挙関連講座 (2年) 下野地区自治会主催の防災活動 (防災キャラバン) 本校生徒 8名が参加。 進路実現にむけて粘り強く努力した生徒 86.0% (昨年度91.2%) 	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p>
<p>生徒指導の充実</p>	<p>(1)「当たり前を素晴らしく」をモットーに、生徒自らが時間を守る大切さ、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組む。</p> <p>(2)生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をし合える状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、人間関係を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全(特に自転車事故の防止)、ネットモラル等の講演会の実施。 年間を通した登下校指導の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣やマナーを身に付け、自ら進んで挨拶をすることができるという回答した生徒の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を通じて、生徒に積極的に働きかけた。生徒指導の課題については、HRや集会で定期的に注意喚起をおこなった。 各種講習会の開催。 登下校指導 (年間5回 本校教職員) 自ら進んで挨拶ができる生徒 88.0% 	<p>※</p> <p>◎</p>

<p>心と体の健康の充実</p>	<p>(1)高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理能力をつける。</p> <p>(2)早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・教育相談専門員との連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」を年間12回以上発行 ・「いのちの教育」について生徒対象講演会を年1回実施。 ・教育相談の充実に向けた教員研修を年1回実施。 <p>・部活動休養日を週1日設定。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室利用者の個別指導に、保護者とも協力しながら取り組むことができた。保健指導や教育相談の状況を保護者や学年と情報共有し、課題の解決に向けて取り組むことができた。 ・保健だより 年間 17 回 ・講演会 年 1 回 「いのちの授業」(中止) ・現職教育 「生徒との関わり方」 ・大会前などは、休養日の設定が難しい部もあるが、概ね週 1 日の休養日を設定している。 ・自分自身の心と体の状態を理解することができた生徒 <p>88. 0%(昨年度88. 3%)</p>	<p>◎</p> <p>※</p>
------------------	---	--	-------------------

改善課題

●ホームページの活用

昨年度、提言をいただいたホームページについて改善をおこない、学校側で簡単に掲載することができるようになりました。しかし、ホームページに掲載する情報を集めたりするのが困難であった。

【課題】 今後、ホームページの担当が必要で、クラブの活躍、学校行事、PTA行事・同窓会などを随時、掲載できる体制を整備してまいりたい。

●防災教育

地域と連携した防災教育をさらに推進し、学校の防災意識を高めるとともに、自助・共助の精神を培い、自他ともにいのちを大切にする教育を推進していく。

【課題】 下野地区で開催された防災活動に、本校生徒 8 名が参加させていただきましたが、今年度はこの取組のみとなってしまう。来年度は志知地区とも連携し、地域との防災教育をさらに推進してまいりたい。

●生徒の安全・安心な取組

生徒指導部主導で、全職員による登下校指導を年間 5 回実施したり、警察署や自動車学校による交通安全講習会の年 1 回の開催により、生徒の交通事故防止や自転車運転マナー遵守の周知に取り組む。さらに薬物乱用防止教室の年 1 回の開催や学期に 1 回の割合でいじめアンケートを実施し、それに伴う個人面談を実施することにより、いじめの早期発見につとめている。

【課題】 生徒の自転車運転については、地域の方々からご意見をいただくことがある。スマホを見ながらの運転や並進運転などである。このような危険運転は、自分のいのちを大切に考えていない行動であるので、今後さらにいのちの大切さを指導できる方策を考えてまいりたい。

いじめについては、学期に 1 回のアンケートを実施していくことはもちろん、生徒の小さな変化を見逃さないようにするため、教職員間や保護者・関係機関との情報共有に取り組んでいきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>(1)教科会を定例化・活性化し、授業内容・評価方法の検討と授業力向上に取組む。</p> <p>(2)校内研修会の充実および外部研修等の成果を全職員で共有する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学を1・2学期に各1週間実施。 ・各部主催の教職員研修を各年1回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会を時間割の中に組み込み一定の成果を得た。 ・研修会欠席者には、個人ボックスに資料を配布し、情報共有につとめた。 ・相互授業見学(5・11月) ・総務2回・教務1回・生徒指導1回・進路指導1回・保健1回 計6回開催 ・満足度が高い授業の実施73.5%(昨年度85.0%) 	※
組織力の向上	<p>(1) 日頃から教職員間の対話を重視するとともに、打合せや会議をとおして、生徒に関する情報や校務運営の情報共有を密にする。</p> <p>(2) 学年・分掌の協力体制を強化し、進路指導や生徒指導、教育相談の情報共有を活発に行う。</p> <p>(3)「運営委員会」「学校マネジメントシステム委員会」において、組織運営及び入試制度や進路指導の在り方等について継続して検証する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織力の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合 7割 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の職員打合せや各種会議において、生徒の情報共有や学年間・分掌間の情報共有もできている。 ・入試制度の検討について議論したが、来年度も継続して議論していきたい。 ・会議の精選や構成メンバーの改善を各部主任と検討し、改善した。 ・校務運営に積極的に関わることができた教職員76.5%(昨年度85.0%) 	◎
働きやすい職場づくり	<p>(1) 会議の精選や時間の短縮などにより労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。</p> <p>(2) 互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするとともに、教職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由闊達に意見を言い合える職場環境づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、会議の精選を検討しましたが、今後も継続的に審議してまいりたい。 ・定時退校日は、10月より、月2回の実施としましたが、退校日への意識が、かなり定着してきた。 ・教職員同士の対話を重視し、コミュニケーションをとることにより、働きやすい職場環境づくりに努めることができた。 	◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日(月2回)を実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合 80%を目指す。(昨年実績月1回 88.9%) ・部活動休養日を原則週1日設定し、計画通り実施できた部活動の割合 100%を目指す。(昨年実績 94.3%) ・放課後に開催される会議が 60 分以内に終了する割合 90%を目指す。(昨年実績 82.4%) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合 70% (昨年実績 65.0%) ・休暇を一人平均年17 日以上取得。(昨年実績 15.8 日) ・時間外労働月 80 時間を超える職員の年間延べ人数を 1 割削減 (昨年実績 48 人) ・時間外労働を一人平均月 1 時間削減 (昨年実績一人平均月 26.2 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・86.7% (10月より月2回の定時退校日を実施) ・部活動休養日週1日 93.5% ・会議が60分以内に終了 68.1% ・ワークライフバランス向上 58.8% ・休暇取得 4月～2月(R1) 11.1日 4月～2月(H30) 12.5日 ・時間外労働80時間を超える職員 30人(2月現在) ・時間外労働月平均 26.9時間(2月現在) 26.6時間(昨年度2月) 	<p>◎</p> <p>◎</p>
--	--	---	-------------------

改善課題

●昨年度からの課題であった労働時間縮減にむけた取組。

1. 会議の精選や構成メンバーの見直し

各部の主任を中心に委員会等で議論し、会議の廃止や統合することができた。

【課題】 会議の構成メンバーを見直し、特定の教員に偏らないように改善してまいりたい。

2. 定時退校日

10月より月2回の定時退校日を設定することができた。職員にもかなり浸透し、定時退校日には、定時で帰宅する教員が増加した。

【課題】 定時退校日の設定日を、クラブの休養日が多い月曜日やテスト中などに設定する。

3. 部活動休養日

週1日の休養日の設定も、ほとんどのクラブで実行されている。

【課題】 生徒に学習習慣を身に付けてもらうため、テスト中などは、部活動時間の制限などを検討する必要がある。

5 学校関係者評価

明らかに 改善課題と次へ の取組方向	<ul style="list-style-type: none">・労働時間の縮減 定時退校日 教員が共通認識を持つよう、学校の方針がすべての教員に浸透するよう工夫してはどうか。 定時退校日以外にも、個人で定時に退校する日を宣言することで、勤務時間削減に結びつけないか。 部活動休養日 週1日から週2日に増やしてはどうか。メリハリをつけることで競技成績をあげている例もある。毎日の練習は、時間を区切って短時間に集中して練習する方が効果のある場合もある。従来からの慣習に囚われない、新しい指導方法を取り入れてはどうか。・防災教育 本校の防災活動は、完成に近づきつつある。今後は地域の方の参加をふやしていけるように取り組んでほしい。 今後も被災地への学校防災ボランティアへの積極的参加をお願いしたい。 (参加生徒の情報発信は大きく、他の生徒の刺激にもなる)・安全教育 自転車通学は、携帯電話・スマートフォンの利用禁止の徹底をお願いしたい。 生徒の「いのちを守る」取組の一環として、交通安全の遵守に取り組んでいただきたい。・情報発信 ホームページは文字を少なくして、写真中心のものとし、中学生や保護者が見やすいように工夫してはどうか。・新聞等のマスコミに対し、積極的に情報発信し、桑名西高校の活性化につなげてほしい。
--------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none">・交通マナーについて、地域の方々からご指摘をいただいております。生徒の事故防止や交通マナー遵守を徹底させるため、生徒指導部による交通指導を充実させることが必要となるため、生徒指導部の人員を1名増やし、取組を強化していく。・ホームページをさらに充実させるため、総務部にホームページの担当者を設け、本校の取組や部活動などを地域に発信することにより、本校の取組についての理解・協力を得ていく。・学校案内など、中学生が興味を示すようなデザインや内容を検討し、多くの方々にご覧いただけるようなものにしていく。・防災教育については、四日市大学のご指導のもと、「防災 in くわにし」と題した取組が3年目を迎える。今年度はさらに地域や関係団体との連携を密にすることや生徒や教職員の防災意識を高め、自助・共助の精神を培い、自他ともにいのちを大切にすることを推進していく。・図書館の利用については、生徒たちがより一層多くの本とふれ合えるように、教科などでの指導を図るなど、図書館を利用してもらえ環境づくりを目指していきたい。
学校運営につ いての改善策	<ul style="list-style-type: none">・労働時間縮減に向けた取組をさらに推進してまいりたい。今年度も引き続き会議の精選や構成メンバーの見直しを図る。・今年度も月2回の定時退校日を実施してまいりたい。・部活動において週1日の休養日を設け、考査中などの活動時間の制限等について検討をおこなっていく。・労働時間縮減に向け業務の簡素化や、外部人材を積極的に活用することにより、部活動における教員の負担を軽減してまいりたい。